

福島県立博物館 令和3年度特別講座

詩人のいる博物館①

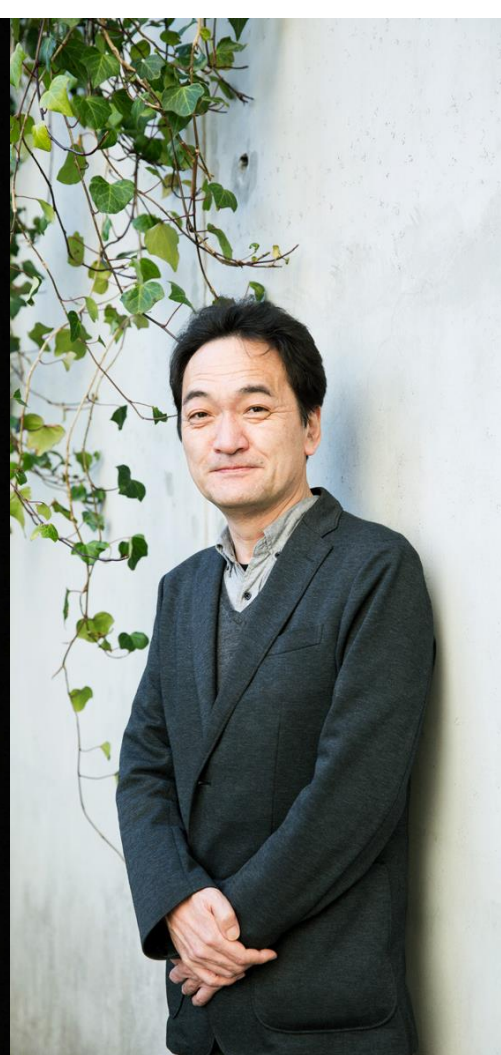
あはひの話

『遠野物語』から 2021 年まで

9月25日(土)

13:30~15:00

福島県立博物館 講堂



講師：和合亮一さん（詩人）
土方正志さん（荒蝦夷代表）

和合亮一（Wago Ryouichi）

詩人。国語教師。中原中也賞、晩翠賞、福島県文学賞、NHK東北文化賞など受賞。震災後に福島から発信した詩をまとめた「詩の礫」がフランスにて詩集賞受賞（日本文壇史上初）。最新刊「QQQ」にて本年度の秋原朔太郎賞受賞。福島県教育復興大使。福島大学応援大使。

土方正志（Hijikata Masashi）

宮城県仙台市の出版社（荒蝦夷）代表取締役。編集者・作家・エッセイスト。『ユージン・スミス 楽園へのあゆみ』（第41回産経児童出版文化賞）、『日本のミイラ仏をたずねて』、『瓦礫から本を生む』など著書多数。荒蝦夷は東日本大震災後の出版活動により2012年出版学会新聞社学芸文化賞受賞。仙台短編文学賞実行委員会代表も務めている。

参加費：無料

要申込（定員100名、8月25日から受付開始）

お電話（0242-28-6000）または福島県立博物館受付カウンターでお申し込み下さい。

福島市在住の詩人・和合亮一さんをホスト役講師に開催する特別講座「詩人のいる博物館」。今年度もゲストをお招きし3回にわたって開催します。

今年度の1回目は、仙台市の出版社＜荒蝦夷＞の代表・土方正志さんにお越しいただき、開催中の企画展「あはひのクニ、あやかしのクニ」にあわせて、「あはひの話」と題してお送りします。

『遠野物語』の頃から東日本大震災を経た現在まで、東北では災害後に、死者との不思議な体験談が残され、語られてきました。それらの多くが、愛おしさや哀しさ、優しさに満ちた、死者との対話のようなものでした。

本講座では、震災後に生まれた「あはひの話」を通して、死者と生者、災害と文学について考えます。

ぜひご参加ください。

※講座の様子を収録し、後日博物館公式 YouTube チャンネルで公開予定です。

会場に撮影機材およびスタッフが入りますことをあらかじめご了承ください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により予定が変更になる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

※ご参加の際はマスクの着用にご協力ください。当日体調に不安がある場合は参加をご遠慮ください。